

草の利用

まさかずくんの家では、牛小屋で牛を飼い、畑では野菜を育てています。野菜畑のすみには、草が積んでありました。



●たい肥

動物のフンに落ち葉などの植物を混ぜてくさらせて作った肥料をたい肥といいます。阿蘇では、干し草を牛のフンに混ぜてたい肥を作っています。これを使うと、おいしくて元気な野菜ができます。

おじいさんの話

干し草は、冬の間の牛のえさや肥料の材料になる。牛小屋に敷いた草や牛が食べた残った草が、牛のフンや尿と混ぜて肥料(たい肥)のもとができる。こうしてできた肥料は畑で野菜を作るのに使うんだ。とても健康でおいしい野菜ができる。昔は一家に一頭は牛や馬を飼っていたから、えさとなる草を必要としたんだ。最近では、トラクターや化学肥料が使われるようになって、牛や馬を飼う家が減ってきたので、草が使われなくなっているよ。



草原と人々の関わり

草原では、いろいろな作業が行われていることがわかりました。農家の人たちがくらしのために行っている作業が、植物の生長などを助け、草原を守っています。

●二次的自然

阿蘇の草原のように、人が利用することで維持される自然を二次的自然といいます。日本には、二次的自然が多く見られます。山林や田畑など、人の手が入ることによって豊かな自然環境が保たれているのです。



農家の人の作業は、草原にとってもいいことだったのね。



そうだね。阿蘇では、千年も前から人々が草原を使ってきたんだって。



千年も!? 長い間、人々がかかわってきたから、こんなにきれいな草原ができたんだね。



でも、おじいちゃんは昔はもっともっと草原が広がっていたって言っているよ。



世界中にじまんでできる阿蘇



阿蘇の草原が、人々が利用することでつくり、守られてきたことはわかったね。

阿蘇のすごさはそれだけではないよ。今では、年間1,900万人もの観光客が阿蘇に来て、草原の景色を楽しんでいる。それに、国立公園にもなっている。国立公園は、日本を代表する自然の景色であることを、国が認めた場所で、全国で28か所しかない。阿蘇の草原は、美しい景色とたくさんの生き物がくらす豊かさが評価されたんだ。

ほくたちパークレンジャーは、この国立公園を守るために働いているんだ。みんなの小学校で、草原について話をすることがあるかもしれないよ。



そんなにたくさんの方が来ているなんてびっくり。

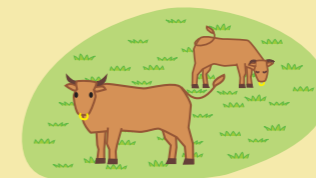


国立公園ってことは、日本の代表だよ。阿蘇はすごいんだなあ。じまんしたくなかったよ。

毎年、季節ごとに行われている大事な作業。これらの作業をしないと、草原はどうなってしまうかな? 今まで学習してきたことから考えてみよう。



野焼きをやめたら...



放牧をやめたら...



草刈りをやめたら...

()をやめたら...「野焼き」「放牧」「草刈り」のどれかひとつを選んで書いてね。